

児童発達支援自己評価表

事業所における自己評価結果(公表)

公表:令和3年3月31日

事業所名 大津市立東部子ども療育センター

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	○		感染予防の観点から、利用定員に対し、安全・安心な状況で事業を行うために、スペースの確保含め、事業の実施方法を工夫している。	
	2	職員の配置数は適切であるか	○			
	3	生活空間は、本人にわかりやすく構造化された環境になっている。また、障害の特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされている	○		整理整頓に努め、動きやすく視覚的にわかりやすい生活空間づくりに努めている。	床面はコンクリート床の上に直接床板が貼り付けられているため保温性に欠け、衝撃を吸収しにくい。転倒時にはけがに繋がらないよう安全面に特段の配慮を行う。
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっている。また、子ども達の活動に合わせた空間となっている	○		必要な物を厳選して配置し、空間を広くとっている。定時に消毒を施し清拭清掃を行っている。壁面には子どもたちの作品を展示し親しみやすく工夫している。見通しが持ちやすいよう動線を考慮し、室内レイアウトを工夫している。毎月1日15日には安全点検を実施し、安全の保全に留意している。	床暖房がなく、冬季は床から冷えてくる。機器・備品についても、安全点検の結果、早期に要修箇所を把握し、早急に対応する。経費確保が必要な事案は、計画的に対応していく。
業務改善	5	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参加している	○		全職員が、学習委員会、食事委員会、健康安全委員会、運営委員会(リーダー会議)等に分担して参画し、定期的に業務についての振り返りと改善を実施している。また、個人別目標会議や総括会議など職員全員が会議に参加し、業務改善に繋ぐための話し合いを行っている。	委員会での協議・改善内容を職員でいち早く共有するよう報告の時機を逸さず、また委員会任せとならないよう職員一人一人が意識して取り組む。
	6	保護者等向け評価表により、保護者等に対して事業所の評価を実施するとともに、保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	○		保護者が評価しやすいよう利用して9ヶ月が経過したのちアンケートを実施し、意見や要望をもとに改善したことを後の利用3ヶ月間に生かすようにしている。	「該当する内容がわからない」との回答を受け、療育の取り組み内容について、誰にでもわかりやすい説明や表現方法をより工夫していく。
	7	事業所向け自己評価表及び保護者向け評価表の結果を踏まえ、事業所として自己評価を行うとともに、その結果による支援の質の評価及び改善の内容を、事業所の会報やホームページ等で公開している	○			評価結果や支援の質の評価が閲覧しやすいよう、見やすいわかりやすいホームページを目指し、不断の努力を行う。
	8	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	○		やまびこ総合支援センターにおいて第三者による外部評価会議を行い、課題や改善すべき点とその改善内容を報告し、業務改善につなげている。	他所の改善策を参考に、取り入れると良いことは積極的に取り入れ、より良くなっていく。
	9	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	○		園内学習委員会にて年間計画を立て、外部講師を招くなど含め、計画的に学習を実施している。	個別に必要な研修内容を必要な時に受講することは難しいため、自己研鑽にも努めている。

適切な支援の提供	10	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成している	○		複数の視点でアセスメントを行い、客観的な分析を試み、児童発達支援計画を作成している。	
	11	子どもの適応行動の状況を図るために、標準化されたアセスメントツールを使用している	○		発達相談を年2回実施し、一人一人の子どもの様子を発達の見点から把握し子ども理解に努めている。	
	12	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」「発達支援(本人支援及び移行支援)」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されている	○		「発達支援」では、様々な体験を積み重ねながら人との丁寧な関わりと手応えをつかめる生活作りを、「家族支援」では、保護者のニーズに合う支援内容を、「地域支援」では地域の保育所等との連携、卒後の支援等、具体的な支援内容を設定している。	支援内容の質の向上を恒常的に目指す。
	13	児童発達支援計画に沿った支援が行われている	○		定期的にあセスメント会議を行い、児童発達支援計画に沿った支援が行われているか計画の見直しも行きながら進めている。	
	14	活動プログラムの立案をチームで行っている	○		クラスに複数配置の保育士(4人または5人)で定期的に会議を行い、活動内容を企画・反省・改善している。	
	15	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	○		季節感を大切に、四季折々の遊びや活動を取り入れ、子どもが興味をもち、繰り返し楽しめる活動内容を工夫するため、月単位で指導計画を立て、進めている。	市内三療育が交流研修や学習会を通して、子どもが主体となって、「おもしろい」「もっとしたい」など主体的に遊ぶ環境や関わりを学び、実践に生かしていく。
	16	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせて児童発達支援計画を作成している	○		療育開始時間から水分補給までの時間帯は、クラス単位を解体して遊ぶ、個別活動を保障しており、クラス活動においても集団活動と個別活動を適宜組み合わせている。	
	17	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	○		毎日支援開始前に朝礼を行い、その日の活動内容や子どもとその家族に関わる連絡事項等を職員間で共有している。また療育前にクラス内でも打ち合わせを行っている。	
	18	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	○		支援終了後には、クラス内で振り返りを行い、その日の反省を記録に残し、次の活動の指針としている。その他の職員にも共有しておくべきことは、その日の内に情報共有している。	
19	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	○		必ず支援に関する記録を個別に残している。その記録から子の育ちや姿の変化を検証し、改善につなげている。		

関係機関や保護者との連携	20	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断している	○		定期的なモニタリング以外にも、学習委員会が核となり、事例を抽出してクラスの枠を超えて事例検証を行っている。	
	21	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	○		個別に子どもの担当職員を設定しており、状況に応じて適任者が参画している。	
	22	母子保健や子ども・子育て支援等の関係者や関係機関と連携した支援を行っている	○			
	23	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合)地域の保健、医療、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援を行っている	該当なし			今後、東部において児童発達支援事業所のセンター化の際に、医療ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子どもの支援について具体的に検討していく。
	24	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合)子どもの主治医や協力医療機関等と連絡体制を整えている	該当なし			今後、東部において児童発達支援事業所のセンター化の際に、医療ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子どもの支援について具体的に検討していく。
関係機関や保護者との連携	25	移行支援として、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚園)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	○		全利用児に対し、卒所児訪問を行い、就園後への滑らかな接続を目指し、移行支援を行っている。また、保護者の要望を受け、就園先と利用児の相互理解を図ったり、就園先からの訪問も受け入れ連携している。	
	26	移行支援として、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	○		利用児は低年齢で就学児はないが、卒所児が就学した後も保護者の要望を受け、関係機関との情報共有や相互理解を図っている。	今後、東部において児童発達支援事業所のセンター化の際に、該当する子どもがあれば移行支援についても具体的に検討していく。
	27	他の児童発達支援センターや児童発達支援事業所、発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	○		天津市内3か所ある児童発達支援を担う施設が合同で専門家から共に学びあう研修の場を持っている。	
	28	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障害のない子どもと活動する機会がある	該当なし		例年、近隣の保育所との交流を実施していたが、コロナ禍にあっては、感染拡大防止の観点から、大勢で一緒に過ごすことを避ける意図で、今年は実施していない。	新型コロナウイルス感染症の収束を待って、交流の場を作りたい。
	29	(自立支援)協議会子ども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加している	○			
	30	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	○		定期的にクラス懇談や個別懇談を行い、日常的にも保護者が相談しやすい雰囲気づくりや積極的なコミュニケーション、個人ファイルを活用し、双方向の連絡を行っている。	コロナ禍においては、保護者の滞在時間を制限しており、通常に比べ、コンタクトがとりにくい状況にある。
	31	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)の支援を行っている	○			

保護者への説明責任等	32	運営規程、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	○		入所前の「重要事項説明書」による説明や入所後の「オリエンテーション」で文面と口頭により説明している。	
	33	児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得て	○			
	34	定期的に、保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	○		定期的に発達相談・個別懇談の機会を設けている。それ以外にも随時相談に応じ、必要に応じて組織的な対応にも配慮している。	保護者の思いを受け止め、気持ちにより添い、落ち着いて話せる相談室の確保等、環境を整えていく。
	35	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	該当なし		父母の会はないが、卒園児の親が交流できるOB会が組織されており、利用年度の枠を越えた保護者間交流が行われている。	OB会を運営していく担い手が必要であり、一部の保護者に負担とならないよう、自主的な運営を尊重しつつ、継続していけるよう協力する。
	36	子どもや保護者からの相談や申し入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申し入れがあった場合に迅速かつ適切に対応している	○		利用児保護者からの相談や申し入れに即時対応し、安心して相談できる関係づくりに努めている。	保護者が相談や申し入れをしやすい雰囲気や環境づくりをさらに努力する。
	37	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	○		園だより、クラスだより、保護者宛文書により、行事案内・連絡・勧奨等、保護者にその都度迅速に伝えるよう努めている。急ぎの連絡は電話を用いる。	保護者への同時即時的な発信方法としてメール配信を検討し、次年度から実施する。
	38	個人情報の取扱いに十分注意している	○		個人情報の取扱いについての確認文書を取り交わしている。	個人情報の取扱いに関する知識を職員がしっかりとつ。
	39	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	○		ことばでのやり取りだけでなく、子どもの表情・しぐさ・その子どものサイン・発声など総合的にコミュニケーションしている。	
	40	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	該当なし		施設の広さや安全面を考慮し、コロナ禍においては実施していない。	新型コロナウイルスの終息を待ち入園・卒園式に地域関係機関の長に参列いただき、開かれた運営を行う。
非常時等の対応	41	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や保護者に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施している	○		非常災害時の対応について、保護者を対象に年度の早い時期にオリエンテーションを行っている。職員については、マニュアルを行動に移せるよう学習会を実施し、全職員が対応できるように訓練している。	
	42	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	○		防火・水害・地震・不審者を想定し、毎月19日前後に定期的な避難訓練を行っている。年間計画の中で保護者が参加する機会もつくり訓練内容を共有している。	
	43	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認している	○			
	44	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	○		職員による人的ミスを起こさぬよう、食物アレルギー対応マニュアルに則して適切に対応している。	
	45	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	○		ヒヤリハット事例を即日報告書に作成し、翌日の朝礼で職員全員に口頭周知の上、報告書回覧を行い、再発防止に努めている。	
	46	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	○		虐待防止マニュアルの内容を職員が習熟するべく研修を実施している。	虐待の未然防止のための家族支援について、職員が知識と力量を備えるよう、日々精進する。
	47	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載している	該当なし			

保護者等からの事業所評価の集計結果(公表)

公表:令和3年3月 日

事業所名 東部子ども療育センター

保護者等数(児童数) 19(19) 回収数 17

チェック項目		はい	どちらとも いえない	いいえ	わから ない	ご意見	ご意見を踏まえた 対応
環境・ 体制整備	1 子どもの活動等のスペースが十分に確保されているか	○15	2	0	0	記載なし	子どもたちの活動量が増加するに伴い、より広いスペース確保を望む声を受け、園庭も活用して活動し、限られた室内の活動スペースで使い方を工夫する。
	2 職員の配置数や専門性は適切であるか	○17	0	0	0	記載なし	
	3 生活空間は、本人にわかりやすい構造化された環境になっているか。また、障害の特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされているか	○16	1	0	0	記載なし	「本人にわかりやすい構造化された環境」の意味がわかりにくいとの声を受け、具体的な説明に欠けていたことを反省し、子どもにとって生活しやすく見通しをもって行動できる環境づくりを実践すると共にその説明責任を果たして参ります。
	4 生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境となっているか。また、子ども達の活動に合わせた空間となっているか	○17	0	0	0	記載なし	
適切な 支援の 提供	5 子どもと保護者のニーズや課題が客観的に分析された上で、児童発達支援計画が作成されているか	○16	1	0	0	記載なし	お子さん一人一人に合った発達支援計画となっているか、保護者のニーズや課題を客観的に分析した上での支援計画となっているかを検証し職員間でよく話し合っており参ります。
	6 児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「発達支援(本人支援及び移行支援)」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容	○17	0	0	0	記載なし	
	7 児童発達支援計画に沿った支援が行われているか	○17	0	0	0	記載なし	
	8 活動プログラムが固定化しないよう工夫されているか	○16	0	0	1	記載なし	子どもにとって経験してほしい活動内容は繰り返し取り組んでいます。活動内容は、子どもの姿を踏まえ、クラス担任が話し合い子どもに合わせた活動に取り組んでいます。既成のプログラムはありません。
	9 保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障害のない子どもと活動する機会があるか	0	0	○17	0	コロナのため接触機会がなくなりましたが、その分先生方がしっかり対応してくださいました。	例年は、隣接する保育園の4歳児との交流や幼稚園施設を借りての交流を行って参りましたが、コロナ禍では実施を自粛しています。

保護者への説明等	10	運営規程、利用者負担等について丁寧な説明がなされたか	○17	0	0	0	記載なし	
	11	児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら、支援内容の説明がなされたか	○17	0	0	0	記載なし	
	12	保護者に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)が行われているか	○17	0	0	0	記載なし	
	13	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解ができているか	○16	1	0	0	記載なし	コロナ禍にあつて感染予防の観点から保護者のセンター内滞在時間を縮小させていただいています。保護者さんが来所する機会も縮小しており、伝え合いの場がづくりにくい状況となっています。クラス懇談や個別懇談以外にも要望を受け入れ、お子さんの状況を共通理解できるよう対応して参ります。
	14	定期的に、保護者に対して面談や、育児に関する助言等の支援が行われているか	○17	0	0	0	記載なし	
	15	父母の会の活動の支援や、保護者会等の開催等により保護者同士の連携が支援されているか	○17	0	0	0	記載なし	
	16	子どもや保護者からの相談や申し入れについて、対応の体制が整備されているとともに、子どもや保護者に周知・説明され、相談や申し入れをした際に迅速かつ適切に対応されているか	○16	1	0	0	記載なし	相談や申し入れについての対応体制が分かりづらかつたり、迅速かつ適切な対応となっていなかったりしたケースがあったやもしれません。こちらから話しやすい雰囲気をつくり、どの利用者さんにとっても相談や申し入れをしやすい体制づくりに努めて参ります。
	17	子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮がなされているか	○15	1	0	1	記載なし	意思疎通や情報伝達において、現状の方法を分析し、よりわかりやすい情報発信や前後確認による意思疎通の円滑化に努めて参ります。
	18	定期的に会報やホームページ等で、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報や業務に関する自己評価の結果を子どもや保護者に対して発信されているか	○17	0	0	0	記載なし	
非常時等の対応	19	個人情報の取扱いに十分注意されているか	○15	1	0	1	記載なし	個人情報の取扱いに疑念を抱かせた事案は無かったか振り返り、今後取扱いに疑念や不安を抱かせないよう、法令遵守で慎重に取り扱って参ります。
	20	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、保護者に周・説明されているか。また、発生を想定した訓練が実施されているか	○17	0	0	0	記載なし	
	21	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出、その他必要な訓練が行われているか	○16	1	0	0	記載なし	火災・風水害・地震・不審者侵入に備え、非常時に職員が適切に避難行動が取れるよう毎月定例で訓練を行っています。今後は、保護者さんも訓練に参加する機会を増やし、訓練実施について知っていただけるように努めます。
満足度	22	子どもは通所を楽しみにしているか	○17	0	0	0	毎日にこにこと嬉しそうに通所しています	引き続き、お子さんと保護者さんにとって安心して通える場所、登園したら楽しく過ごせる場所となるよう、さらに活動内容を工夫して参ります。感染症予防では、衛生対策や感染予防策にも努めて参ります。
	23	事業所の支援に満足しているか	○17	0	0	0	コロナのため通所期間が短くなったが、先生方の働きで少しでも通所できるようにしていただきありがとうございました	